

目標項目の評価方法についての補足（案）

○ 健康格差の指標について

- 健康寿命の都道府県格差など健康格差の縮小に関しては、全てのグループで健康指標が改善するのと同時に、健康指標が悪いグループほど大きく改善することによって格差の縮小が達成されるべきである（図表1）。そのため、最も良いグループと悪いグループの差だけでなく、全体の格差の縮小に関する指標を考慮する。
- 全体を四分位等に分けた場合の上位グループの改善と下位グループの改善の差や、グループ間の健康指標のばらつきを標準偏差で表した「地域格差指標」、各グループを量的基準で分け人口も考慮した「格差勾配指数」（SII：Slope Index of Inequality）等を格差の評価の際の指標として用いることが考えられる。

【図表1】

「都道府県格差の縮小」の望ましい姿(概念図)

